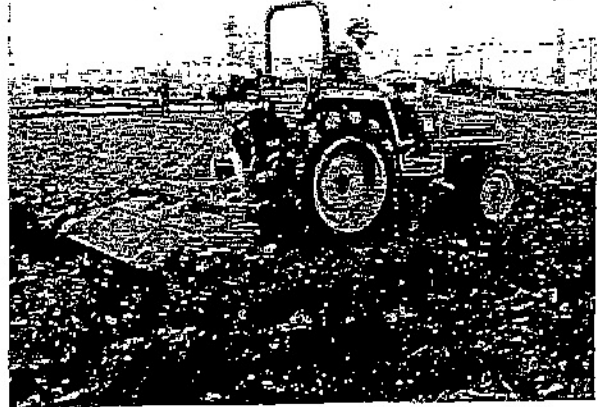


栽培中の遺伝子組み換え大豆を無断で
廃棄する反対派農民＝26日、谷和原村

茨城新聞 (15.7.27)



組み換え大豆無断廃棄

谷和原 農場 反対派農民抜き取り

除草剤に耐性を持つ遺伝子組み換え大豆が栽培されている谷和原村の農場で26日、遺伝子組み換え作物に反対する農民らがトラクターを使い、約20アールに植えられていた大豆を無断ですべて廃棄した。

「大豆は、農家が約700人でつくる「バイオ作物懇話会」(宮崎市、長友勝利代表)が栽培。農水省によれば、遺伝子組み換え作物を一般ほ場に作付けしているのは全国でここだけだという。

反対派は「花粉が周囲に飛散すると在来種と交雑する恐れがある」と今回の実行役を説明。これに対し、長友代表は「情報はオープンにしてきたのに、大きな憤りを感じる。法的手段も含めて対応を検討したい」としている。

反対派は26日午前、現地では約十人がトラクター一台を持ち込み、大豆を抜き取った。農水省によると、遺伝子組み換え作物の中で一般ほ場での栽培が認められているのは大豆やトウモロコシなど六種類。

毎日新聞 (15.7.27)

遺伝子組み換え：
試験栽培妨害で被害届ける 茨城・谷和原村

茨城県谷和原村の農場で試験栽培されていた遺伝子組み換え大豆約20アール分が無断で掘り返され、埋められていたことが27日、分かった。遺伝子組み換え作物の栽培に反対している地元農家らがトラクターを持ち込んだとみられ、大豆を栽培している「バイオ作物懇話会」(宮崎市・長友勝利代表)は県警水海道署に被害届を出した。

農場の地権者らによると、掘り返されたのは26日。懇話会は除草剤に耐性のある遺伝子組み換え大豆の試験栽培のために6月に大豆の種をまいた。大豆が開花した7月下旬、遺伝子組み換え作物に反対する県内の農家や消費者らでつくる「遺伝子組み換え作物いらない茨城ネットワーク」が「花粉が飛び、自然の大豆と交配する恐れがある」として刈り取りを要求したが、懇話会が断った経緯がある。

長友代表は「予定していた試験はできなくなった。今後の対応は未定だが反対派が謝罪すれば被害届は取り下げたい」と話している。【土屋 漢】

〔毎日新聞7月27日〕(2003-07-27-22:26)